

北京消息第28号

新潟市北京事務所

中国北京市東城区建国門内大街 18 号恒基
中心 1-704 号室

<http://city.niigata.org.cn/> 6 月 29 日発行

報告 1

5 月 31 日～6 月 6 日 新潟物産展 瀋陽で開催

新潟県産品の認知度向上や中国市場への販路開拓などを目的に、新潟物産展が 5/31(木)～6/6(水)の一週間、瀋陽伊勢丹百貨店で開催されました。6 月 2 日、日中国交正常化 40 周年の記念行事の一環とし、「瀋陽ジャパンウィーク」が開幕され、日本や日本製品に関心を持っているお客さんが大勢来場しました。これは、在瀋陽総領事館が遼寧省政府、瀋陽市政府と共催して行ったものです。「瀋陽ジャパンウィーク」開催期間中、新潟物産展以外、日本観光展示会、北海道物産展、佐賀県物産展、東京 COSPLAY&ファッションショー、日中青少年交流会等一連のイベントが行われたということです。(鞠)



ついき
鉋起銅器づくりの実演



物産展ブースの様子

報告 2

夏のハルビンを売り出せ
～第 2 回中国・ハルビン松花江湿地旅遊文化節に参加して～

1979 年以来、友好都市交流を続けるハルビン市。北海道稚内市とほぼ同緯度で、冬は-30

度にも下がる。「氷城」(氷の都)として毎年1月に行われる冰雪まつりは世界的にも知られている。

そんなハルビンが夏の観光にも力を入れ、その魅力を今、国内外に売り出そうとしている。もともと北方の都市、中国国内では「避暑地」として有名だ。今回私たちが参加した松花江湿地旅遊文化節をはじめ五つの催事をまとめ、全体として「魅力的なハルビンの夏」を統一テーマとし、6月10日四か月にわたる一連の文化旅遊イベントが始まった。

当日雨が降り続き、予定どおりの開催が危ぶまれたが、開幕式直前に雨が止んだ。中央大街に面するホテルに集まった式典参加者は歴史あるこの通りに敷かれた紅いじゅうたんの上を歩き、会場に向かう。道の両側には、参加者を歓迎する多くの市民たちによる踊り、演奏、演技などが繰り広げられた。報道によれば、その数6,000人。防洪勝利記念塔近くの特設ステージで開幕式、乗船しての湿地めぐり、夕食会、松花江の打上げ花火と続いた。おもてなしの心を感じ、忘れ難い開幕式となった。

都市の魅力を如何に伝えるか。冬の観光だけでなく、今まで個々に行われていたものを積極的に関連づけさせ、夏の魅力も見せ、売っていかうとするハルビンの姿勢には学ぶところも多い気がする。



松花江の湿地。遠くに松北区のビル群



中央大街には多くの市民が私たちを歓迎



挨拶をするハルビン市の林鐸書記
左は全人代常委会の周鉄農 副委員長、
右はソコロフ ハバロフスク市長



終日降り続いた雨も止み、
美しい夕日が松花江を照らした

「魅力的なハルビンの夏」

- | | |
|-----------|----------------------|
| 6月10日～24日 | 第2回中国・ハルビン松花江湿地旅遊文化節 |
| 6月15日～19日 | 第23回中国・ハルビン経済貿易商談会 |

6月28日～7月9日 2012 中国・ハルビン国際ビール節(ビールまつり)

8月6日～15日 第31回中国・ハルビンの夏音楽会

9月下旬 第1回五花山賞秋節(秋まつり)

新潟からわずか2時間の飛行で行けるハルビンへ、この夏、皆さんも如何ですか。

(近藤)

報告 3

「北京国際旅遊博覧会 2012」に新潟市・佐渡市共同で出展

6月15日から17日まで「北京国際旅遊博覧会 2012」(BITE2012)が北京の国家会議中心展示ホールで開催されました。今回の博覧会は「交流、合作、発展、共贏」(交流、協力、発展、WINWIN)をテーマに80の国と地区が参加、中国国内からも25の省市自治区の929社のブースが並び、220名以上の特約バイヤーが参加しました。

展示面積は3万平方メートルに及び、海外の航空会社も去年の7社から今年は13社に増え、新婚旅行サービスブースも初登場、また、初めてキャンピングカー、ボート、観覧車など新しいスタイルの旅行商品が体験できました。

一番盛り上がっていたのは旅行会社で、海外・国内ツアーを低価格で出しており、会場で申込みすれば、3000元OFFなどいろんなイベントが開かれ、市民が長い行列を作って参加していました。

新潟市と佐渡市も北京市民への認知度を上げるため、三日間出展しました。今回3日間市民と直接触れるなかで、市民からの質問も多く、特に日本に何度も行かれた方からは、団体旅行はあるか？ゴールデンルートでないが、旅行社でも申し込みできるのか？個人旅行で行く場合はどうしたらいいかなど聞かれ、また、関心が高かったのは現地のランドオペレータの有無、中国のガイドさんの有無、旅行の金額でした。

三日間を通して、北京での認知度を一層高め、積極的にPRし、中国語の資料をより充実させ、お客様の対応に答えるように努力していききたいと思います。(李)



旅行社の方と商談中。



アンケートを記入している市民たち。

市民でにぎわっている
新潟市・佐渡市ブース。⇒

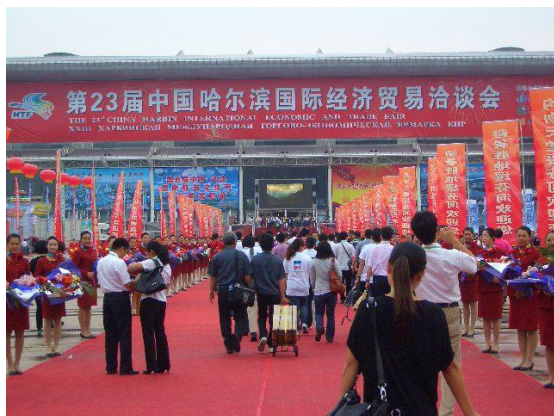


6. 15～19 ハルビン国際経済貿易商談会に参加

今年も6月15日から新潟市の友好都市であるハルビン市で「第23回中国ハルビン国際経済貿易商談会」が5日間の会期で開催されました。会場はハルビン国際会議センター、報道によれば会期中の実績は76の国と地区から8700人以上のビジネス客が参加、展示面積約12万8000平方メートル、国外から参加したブースは800余りと、前年の倍近くに増え全ブースの3割近くを占めていました。新潟県内企業は11社、新潟市からは2社が出展しました。

商談会で感じたことは、中国国内では食品の安全性がより一層注目され、それをビジネスチャンスととらえている企業が目立ったことです。商談会のメイン会場は緑色食品（汚染されていない安心・安全・健康的な食品として政府の認可を受けた食品）を扱っている食品企業ブースが多くを占め、試食コーナーも来場者で大変賑わっていました。

残念ながら現在、新潟県産の農産物や加工食品は中国政府より輸入が規制されており、中国で積極的にPRすることが難しい状況です。今回の商談会でも新潟から出展した企業は非食品製造業がほとんどでした。しかし、食品に限らず、日本製品の信頼性は依然として高く、中国製に比べ高額であるにも関わらず出展商品は良く売れていました。出展企業にとっても、今回の商談会をとおしてどのような商品がハルビン市民に受け入れられ、また価格帯はどのように設定すればよいかなど参考になっていたようです。（笠原）



商談会初日正門から大勢の
バイヤーが会場に向かいます



新潟市出展企業ブースの様子